

2021年度 第2四半期決算

イオン株式会社

2021年10月6日

- ・営業収益は前年度の大規模休業からの回復、防疫の徹底と内食需要への対応で**過去最高を更新**
- ・四半期純利益は621億円の大増益で**黒字に転換**

(億円)

	当期実績	前期比・差
営業収益	43,449	+1.7%
営業利益	777	+438
経常利益	779	+499
親会社株主に帰属する 四半期純利益	45	+621

連結業績（セグメント別）



- ・総合金融、GMS、サービス・専門店、ディベロッパー、国際の5事業が損益改善
- ・DS、ヘルス&ウェルネス、SMの3事業は、2019年度対比で増収増益
- ・多様な事業ポートフォリオが奏功し、グループトータルで増収増益

【セグメント別業績】

(億円)

	営業収益	前期比(%)	営業利益	前期差
連結合計	43,449	+1.7	777	+438
総合金融	2,395	+3.9	350	+263
GMS	15,329	+3.6	-162	+192
サービス・専門店	3,459	+13.8	-13	+133
ディベロッパー	1,787	+20.5	197	+68
国際	2,077	-4.9	27	+5
DS	1,960	-4.1	12	-16
ヘルス&ウェルネス	5,107	+6.2	221	-33
SM	13,820	-8.5	141	-150

期初シナリオとの相違



- ・変異株による急激な感染拡大が期初シナリオ想定外

【想定の変化】

当初想定

- ・感染拡大するも休業規制なし。第2四半期には感染者減少に転じる

実際

**国内外で厳格な
営業規制が発令**

- ・規制によるモール休業・営業時間短縮
- ・宣言期間の長期化、エリア拡大
- ・帰省自粛により、お盆の人出は想定以下

**外出自粛の長期化による
消費マインド低下**

- ・衣料、化粧品、外食の落ち込みが継続し、GMSの非食品部門の売上が想定を下回る
- ・イオンモールの専門店売上也想定を下回る

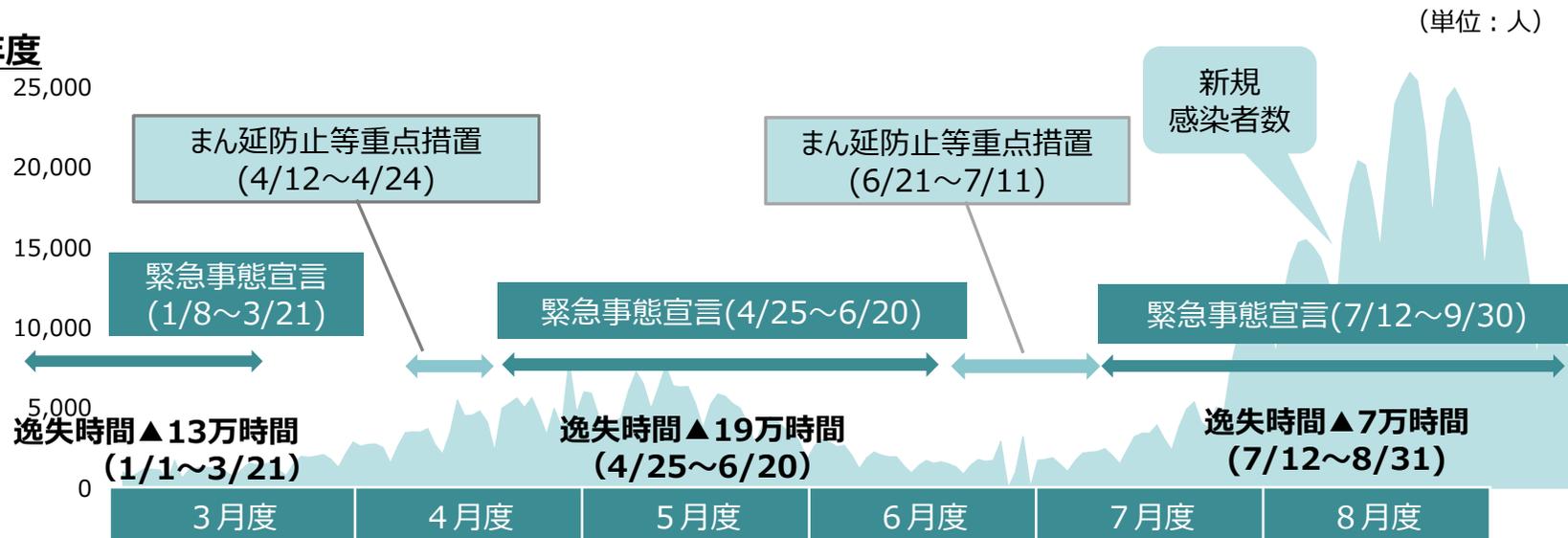
緊急事態宣言の状況（日本）



- ・大半の期間、規制・措置が継続
- ・特に5月、8月は、月間を通じて緊急事態宣言と重なる

【国内 コロナ新規感染者数推移】

2021年度

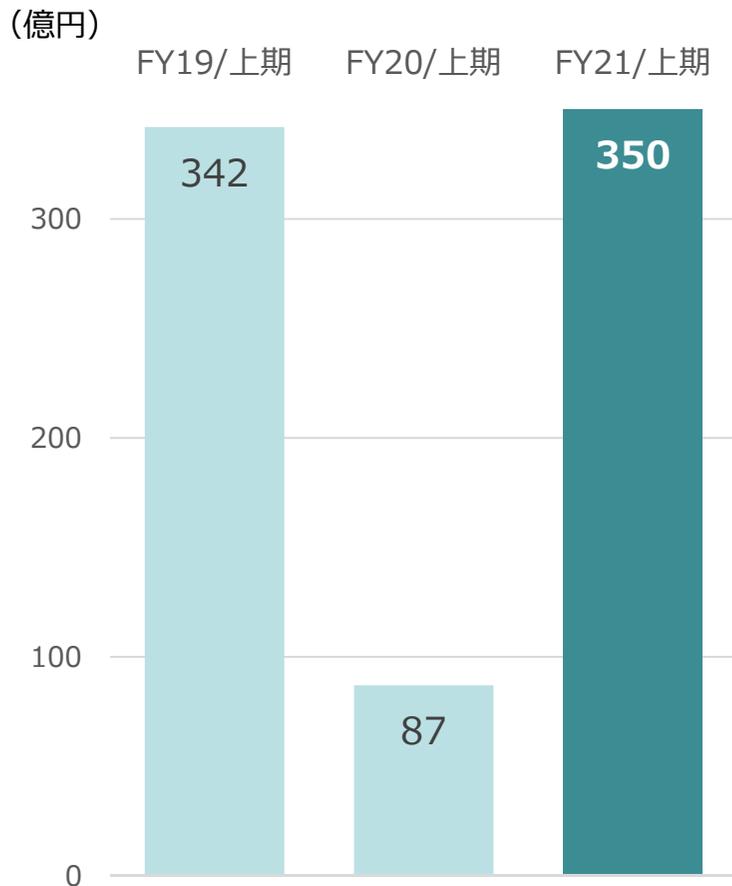


2020年度



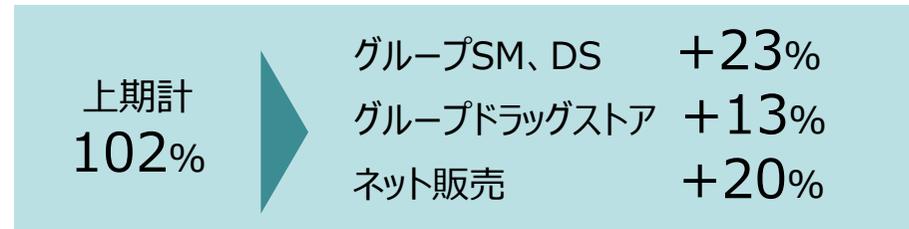
- ・イオングループの強みを活かし食品やネット販売のショッピング取扱い高が伸長
- ・審査、回収体制の強化継続により債権の良質化が進み、貸倒関連費用が想定を下回る

【セグメント利益】

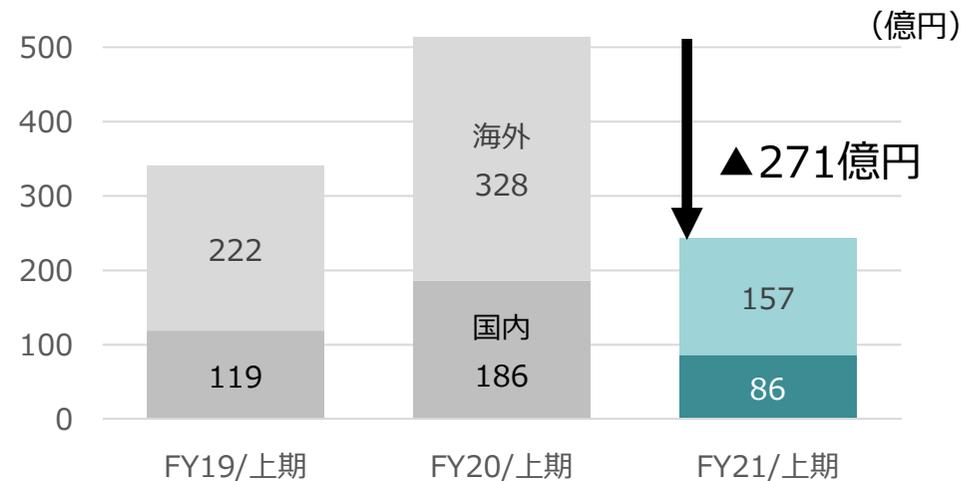


【イオンフィナンシャルサービス】

・ショッピング取扱高 伸長業種 2019年上期対比 (国内)



・貸倒関連費用の推移※

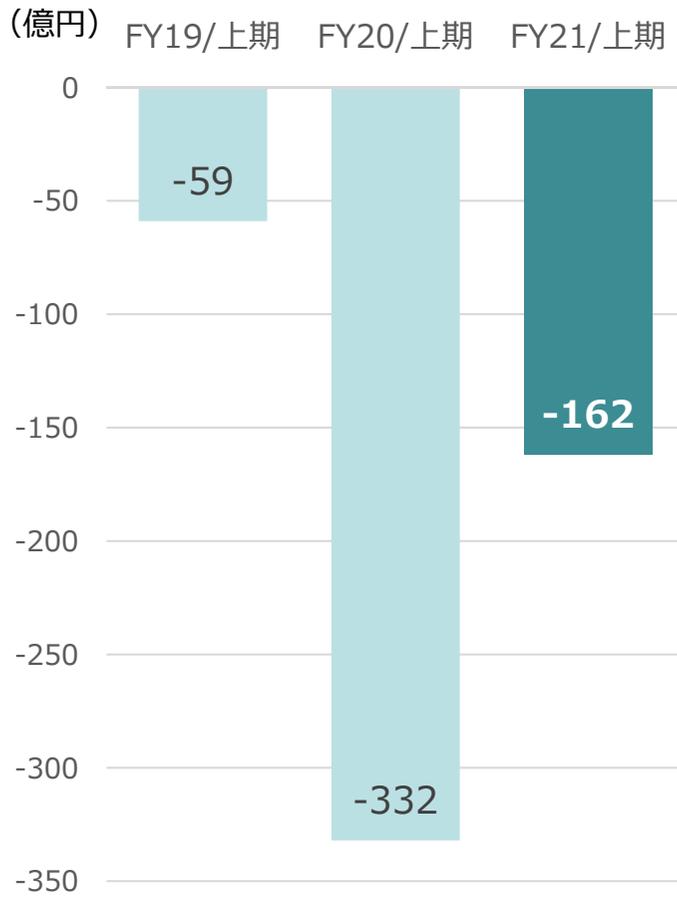


GMS事業



- ・食品に加え、健康増進や巣ごもり需要に対応した部門の売上が伸長
- ・売上総利益率、テナント収入も改善。前年自粛した販促費以外の経費は抑制

【セグメント利益※】



【イオンリテール】

・売上既存比（部門別） (%) ・コロナ前からの主な伸長部門

	前期比	前々期比	前々期比
食品	+2.2	+4.2	農産 +9.0 畜産 +8.7 水産 +7.6 デイリーフーズ +6.3
衣料	+3.8	-21.1	
住居余暇・H & BC	-4.4	-12.1	園芸用品 +138.2 エンターテインメント +59.6 スポーツジム +55.8 調剤+9.2 家事消耗 +7.8
計	+1.0	-4.9	

・営業利益改善要因（商品調達部門の移管影響を除く）



GMS事業（イオンリテールのリバイバルプラン進捗）



・成長の基盤作り、構造改革を推進

成長の基盤作り

ネットスーパー

- ・売上 **前期比+21%（前々期比 +43%）** ※
- ・午前便の拡大等、受注枠を拡大。オリンピック、土用の丑、お盆関連等の予約企画を強化
- ・店舗ピックアップは8月度に過去最高の**1万件超**を記録

衣料売場の改革

- ・ビジネスとカジュアルの面積適正化を推進。重点強化部門の売上が好調（以下、売上既存比）
- ・トレンド型カジュアル「エシム」 **+253%**
- ・スポーツ「スポージアム」 **+ 31%**
- ・エシカル「セルフ+サービス」 **+ 27%**



コスト構造改革

売変の削減

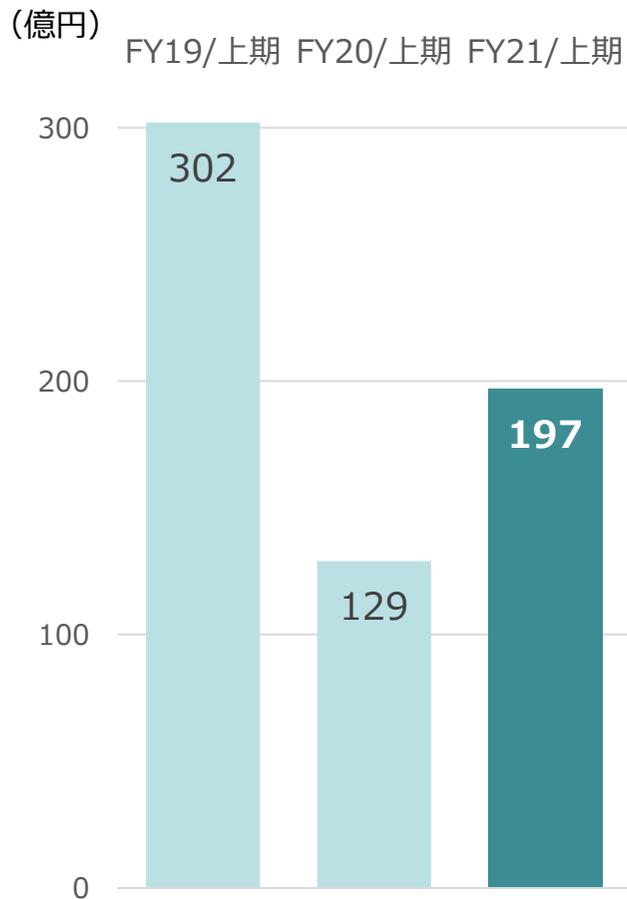
- ・割引時に適切な価格を設定できる「AIカカク」をデリカ売場に導入完了。デリカ部門の売変率を**▲1.2%削減**
- ・計画から売り切りまでの業務を本社で進捗管理。食品全体の売変率も**▲0.4%削減**

在庫の削減

- ・**期首差▲127億円、前年上期末差▲84億円** ※※
- ・仕入コントロール、SKU削減等による店頭在庫削減を推進

- ・感染封じ込めの中国では、コロナ前の売上水準を超過
- ・国内外でモールのリニューアルや出店を推進。リアルモールならではの体験価値を提供

【セグメント利益】



【イオンモールの状況】

・専門店売上 2019年度既存モール対比 (%)

	1Q	2Q	コロナ感染の状況
中国	+11.5	+7.7	封じ込めを徹底
日本	-22.5	-22.4	緊急事態宣言の拡大・延長
ベトナム	+23.8	-32.4	5月以降南部で感染拡大

・中国 エリアの成長に合わせた
リニューアルを推進

- イオンモール武漢金橋
- イオンモール武漢経開
- イオンモール武漢金銀潭
- イオンモール蘇州園区湖東 他



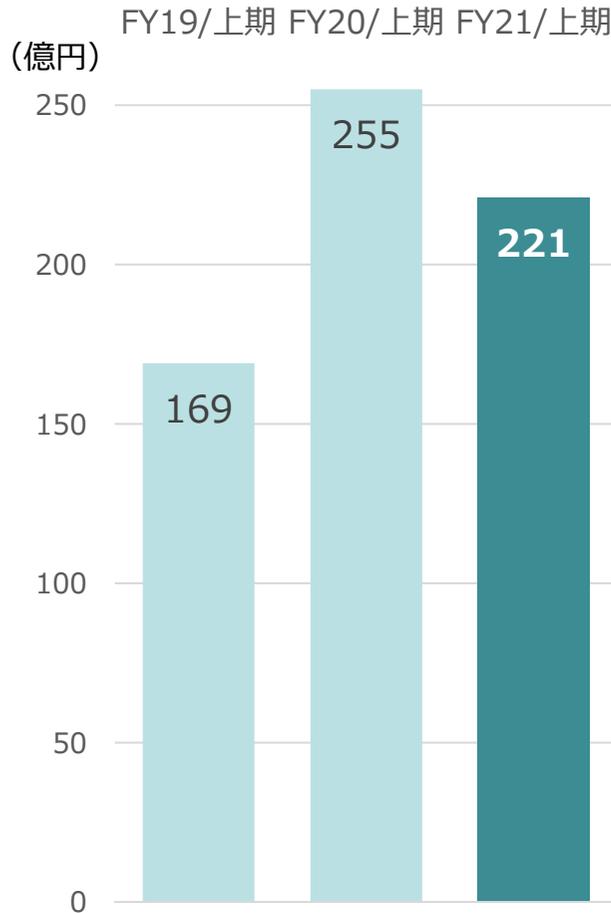
・日本 イオンモール白山 開業

地元金沢の人気レストランを運営する
6社が手がけた新業態



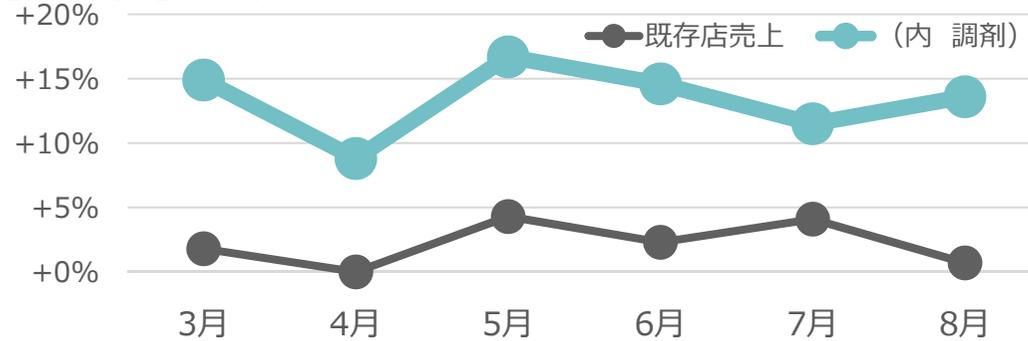
- ・調剤部門が売上を牽引。調剤併設化も計画以上に進捗
- ・新規出店、新規グループ化による業容拡大の取組みも推進

【セグメント利益】



【ウエルシアホールディングス】

・売上既存比の推移



・調剤併設化の進捗 (国内)

調剤併設店舗数 : **1,742**店舗 (前期末差 **+104**店舗)
 (計画差 **+17**店舗)

調剤併設率 : **78.0%** (前期末差 **+2.4%**)
 (計画差 **+0.5%**)

・業容拡大の取組み

新規出店数 (国内) : **81**店舗 (計画差 **+6**店舗)

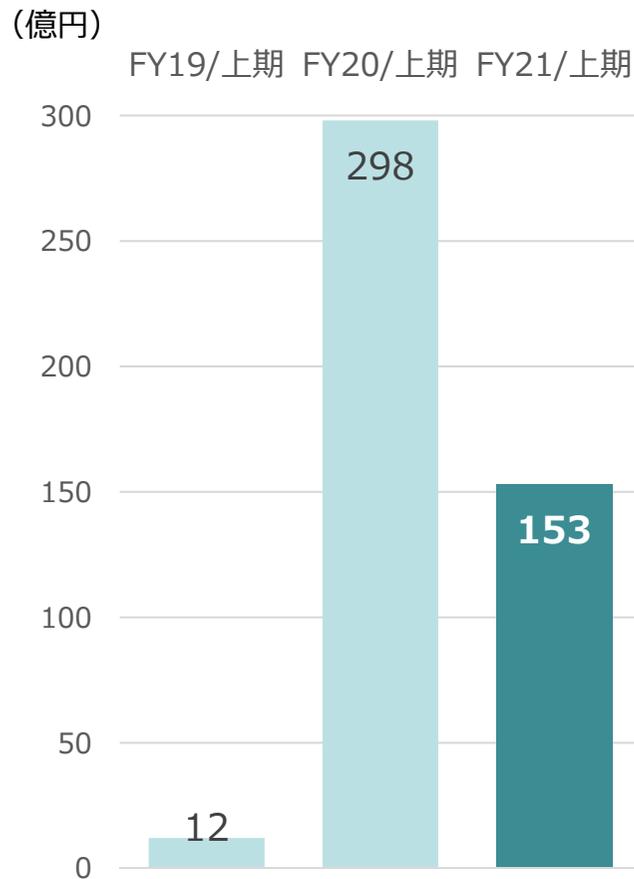
新規グループ化 : プレひまわり (広島) と資本業務提携
 12/1子会社化予定

SM事業、DS事業



・内食需要への対応強化で生鮮・デリカの売上伸長。2019年度対比で141億円の増益
 ・地域密着経営と生産性改善の取組みを推進

【セグメント利益※】



【SM11社：生鮮・デリカ売上の状況】

既存店売上 (%)

	前期比	前々期比
畜産	-5.1	+6.1
農産	-6.1	+6.5
水産	-0.4	+7.0
デリカ	+6.5	+4.1
生鮮・デリカ計	-1.6	+5.8

【地域密着経営、生産性改善の推進】

- USMH： Scan&Go導入500店舗突破
- MV東海： 小型店モデルを旧MV中部エリアに出店。地域商品拡充
- まいばすけっと： 発注精度向上、新店でのセルフレジ標準化へ 上期出店50店舗

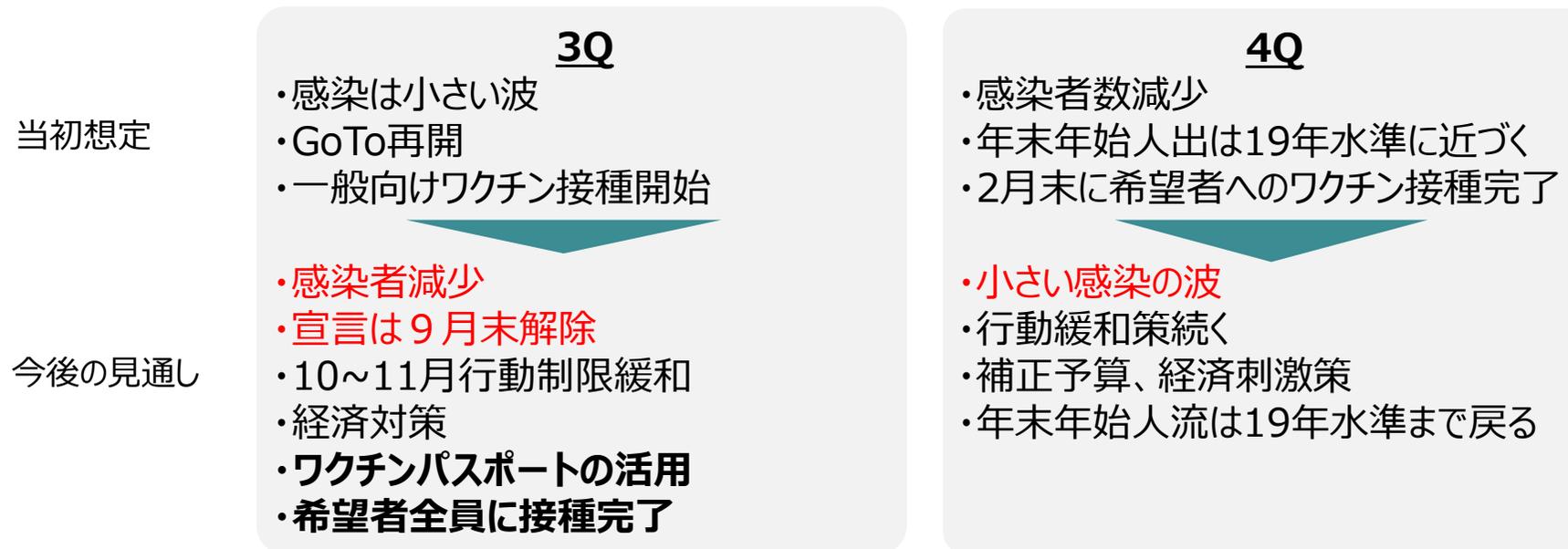


※2019年度実績からマックスバリュ北海道、マックスバリュ九州、2020年度実績からマックスバリュ九州を除外

下期の想定シナリオ

- ・期初の想定よりも早期に希望者へのワクチン接種が完了する見込み
- ・5つの成長戦略を着実に推進し、中長期的な成長の基盤作りを進める

【想定の変化（日本）】



下期も5つの成長戦略に基づき施策を推進

デジタルシフトの加速と進化

サプライチェーン発想での独自価値の創造

新たな時代に対応したヘルス&ウェルネスの進化

イオン生活圏の創造

アジアシフトの更なる加速

・経営統合を推進し、地域ナンバーワンの企業体を目指す

フジ、マックスバリュ西日本の経営統合（2022年3月持株会社化、2024年3月合併）



売上	約8,700億円
店舗数	約500店舗
従業員数	約32,000人

イオン東北とイオンリテール東北事業本部（非食品部門）の統合（2021年9月）



売上	約2,800億円
店舗数	約150店舗
従業員数	約17,800人

- ・フジがイオンのSCに初出店。経営統合に先立ち連携を強化
- ・地域との連携を深めたオフィス複合型モールを今月開業

イオンタウン川之江（9月開業） ～フジがイオンのSCに初出店。ウエルシア四国初出店～



オフィス複合型商業施設（10月開業予定） 「イオンモール Nagoya Noritake Garden」

4～6F BIZrium 名古屋（オフィスエリア）

1～3F 商業エリア

- ・グループの「ときめきポイント」を「WAON POINT」に統合し、「分かりやすい」「貯めやすい」「使いやすい」ポイントシステムへ
- ・WAON POINTをキーに、トータルアプリ「iAEON」をデジタル・リアルのポータルとして進化



変更前

クレジット・デビット でのお支払い	電子マネーWAON でのお支払い*1	現金でのお支払い (カード提示)
ときめきポイント	WAON POINT	WAON POINT



変更後

クレジット・デビット でのお支払い	電子マネーWAON でのお支払い*1	現金でのお支払い (カード提示)
WAON POINT		



グループの各種
サービスへの入口

ポイントの管理、利用
が便利に



成長戦略の推進

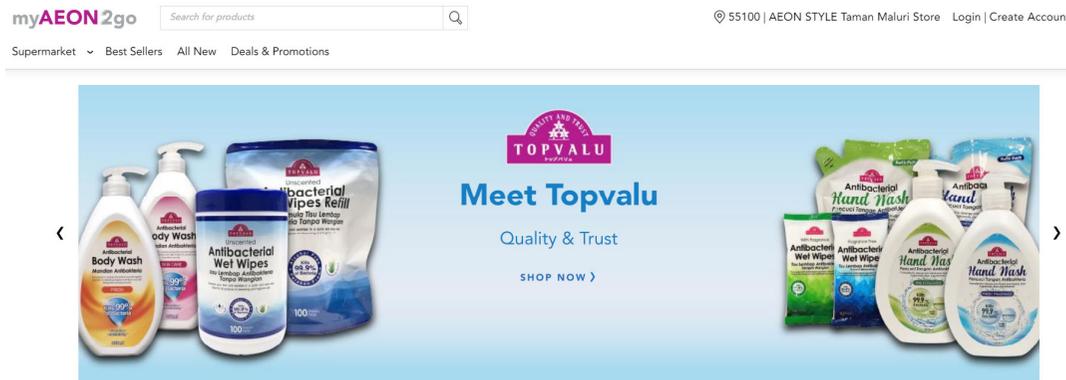
アジアシフトの
更なる加速

デジタルシフトの
加速と進化

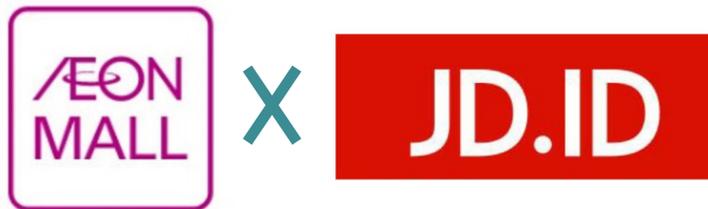


- ・米国BOXEDのECプラットフォームをイオンマレーシアのEコマースにカスタマイズ導入
- ・インドネシアでは大手ECプラットフォームとの協業をネット・リアル両面にて開始

イオンマレーシア ~BOXED基盤のEコマース強化~



イオンモールインドネシア ~大手ECプラットフォームJD.IDとの協業~



ウエルシアの新コンセプト店舗 ～ウエルシア イオンタウン幕張西店オープン（10月）～

医療

- ・クリニック・病院との地域医療連携
- ・オンラインやお薬受取りのニーズを満たすツールの導入
- ・検体測定機器を活用した健康チェックと相談

地域密着

- ・地域のニーズに合わせ、食品や園芸カテゴリーを拡大

予防・未病

- ・常設測定機器によるセルフチェック
- ・管理栄養士を中心としたスタッフによる健康相談
- ・セルフメディケーションの促進

専門性

- ・薬剤師・登録販売者・管理栄養士・ビューティアドバイザー・ガーデニングスタッフなどの専門スタッフ

“着る、疲労回復”「セリアント ウェア」秋冬物展開



拡大するプロテイン市場への対応



成長戦略の推進

サプライチェーン発想での
独自価値の創造



- ・生活防衛意識の高まりを受け、お客さまの生活を応援するため、トップバリュの食料品の価格を年内据え置き
- ・健康志向など、お客さまのニーズに対応した商品開発を推進

トップバリュの食料品 いまこそ！年内価格凍結宣言！



オーストラリア産 オーガニックラム



国際フェアトレード認証、有機JAS認証 コーヒー



プロの味をいつでも自宅で。一流料理人監修



業績予想



・期初公表値から変更なし

【2021年度 業績予想】

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度 (予想)	前期比・差
営業収益	86,042	86,039	86,200	+0.2%
営業利益	2,155	1,505	2,000~2,200	+494~+694
経常利益	2,058	1,388	1,900~2,100	+511~+711
親会社株主に帰属 する当期純利益	268	-710	200~300	+910~1,010

The AEON logo is centered on a white background. It consists of the word "AEON" in a bold, purple, sans-serif font. A purple, three-dimensional ring with a gradient from light to dark purple is positioned horizontally, passing through the middle of the letters 'E' and 'O'.

AEON

2021年8月末 連結貸借対照表



(億円)

資産の部 (主要項目のみ)	2021/2	2021/8	前期末差	負債・純資産の部 (主要項目のみ)	2021/2	2021/8	前期末差
現預金	12,875	11,429	-1,446	支払手形・買掛金	10,724	9,798	-925
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	16,027	16,686	+659	有利子負債 (金融子会社除く)	21,022	21,463	+440
たな卸資産	5,428	5,278	-150	有利子負債 (金融子会社)	10,434	10,999	+564
営業貸付金・銀行業 における貸出金	27,332	27,672	+340	銀行業における預金	40,100	40,916	+815
有形固定資産	30,629	31,555	+925	負債合計	97,254	96,864	-390
投資その他資産	9,773	9,757	-15	株主資本	9,239	9,136	-103
				純資産合計 (金融子会社除く)	17,557 (13,936)	17,947 (14,076)	+389 (+140)
資産合計 (金融子会社除く)	114,812 (57,492)	114,812 (56,818)	-0 (-674)	負債・純資産合計 (金融子会社除く)	114,812 (57,492)	114,812 (56,818)	-0 (-674)

配当予想



	2020年度	2021年度 (期初予想から変更なし)
第2四半期末	普通配当 18円	普通配当 18円
期末	普通配当 18円	普通配当 18円
合計	普通配当 36円	普通配当 36円

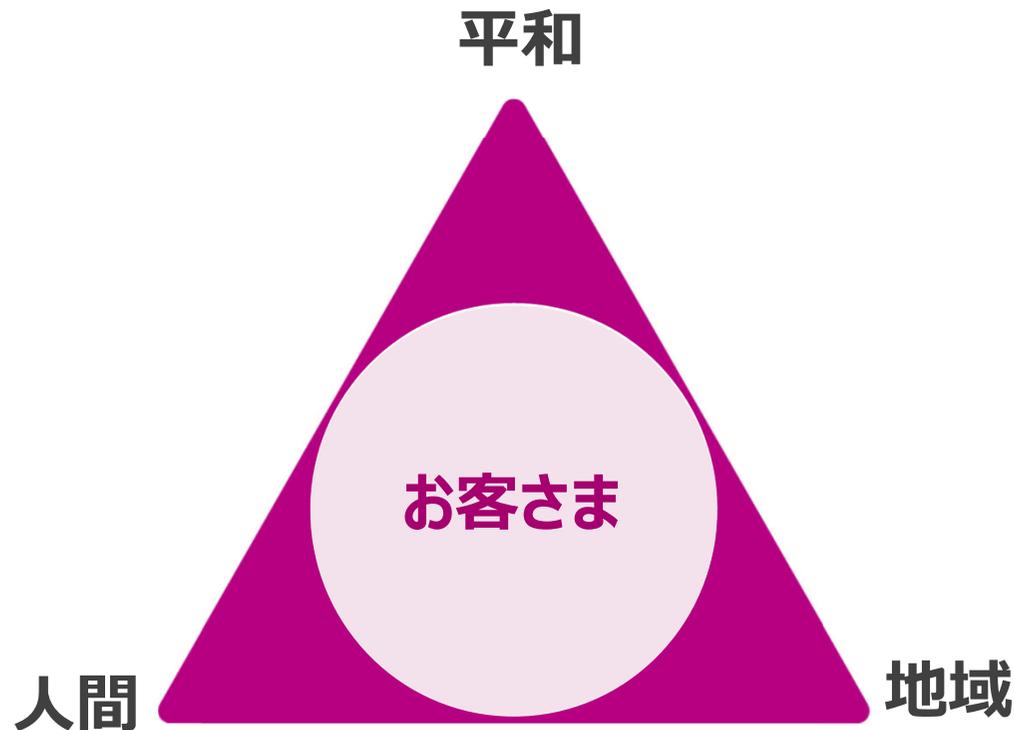
ダイエー再編関連企業の2021年度第2四半期実績



(億円)

事業	社名	営業収益			営業利益		
		実績	前期比	前々期比	実績	前期差	前々期差
GMS	イオンリテールストア ※関東、近畿、名古屋の 旧ダイエーGMS	544	-0.8%	-15.2%	-17	+7	+10
SM	ダイエー	1,515	-3.7%	+2.4%	2	-22	+19

お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。



平和：イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。

人間：イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。

地域：イオンは、地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。

イオンは基本理念のもと、絶えず革新し続ける企業集団として、「お客さま第一」を実践してまいります。

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている 見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。